



公益財団法人 鳥取県国際交流財団

Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取县国际交流财团

とっとり国際通信

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN / 鸟取国际通讯

No. 112

Dec. 2014



写真 平成26年度「子どものための異文化理解体験講座」の様子
2014 Children's Cultural Awareness Workshop Update
平成26年度「以孩童为对象的异文化理解体验讲座」的情景

目次 Contents 目录

TIPIEFだより

- ・開催報告と開催のお知らせ
- ・平成26年度鳥取県海外研修員の紹介
- ・財団の事務所を紹介します!「米子事務所」

特集

「日本語を外国語として学ぶ」

02-03

海外レポート

- ・北欧フィンランドのクリスマスを紹介します!

鳥取県に暮らす

- ・外国出身者が運転免許を取得するには

04-05

JICAデスクより

06

英語版・中国語版ダイジェスト

Information in English and Chinese 英文版・中文版文摘

- ・Introducing TPIEF's Yonago Office
- ・Feature " Learning Japanese as a Foreign Language "
- ・Living in Tottori
- ・Getting a Driver's License as a Foreign Resident "
- ・財団の事務所紹介「米子事務所」
- ・特集「学习外语之日语」
- ・生活在鸟取之「外国人取得驾照的方法」

07

07

図書情報等

10

TPIEF
だより

子どものための

開催中!

異文化理解体験講座



県内の小学校に、外国出身講師を派遣して異文化に触れる機会を提供するこの事業は4年目を迎えました。今年度は9月から12月にかけて県内から応募のあった全ての小学校(27校)に出かけています。

本講座の講師は「母国の文化を伝えたい」、「子どもたちと交流をしながら相互理解を深めたい」と意欲のある県内在住の外国出身の方々が務めています。写真を使いながら出身国の文化・生活について紹介したり、その国ならではの遊びを子どもたちと一緒に楽しめます。子どもたちにとって、地域で暮らす外国出身の講師の皆さんと触れ合うことで、異文化に興味や親しみを持つきっかけとなるよう願っています。



台湾では朝から外食が当たり前!



モンゴルの学校は夏休みが3ヶ月間もあるんです



アフリカの音楽に合わせて体を動かします



マレーシアの紙幣を紹介

子どもたちは、日本にはない習慣に驚いたり、日本と外国の子どもたちの生活を比較しながら、その違いや共通点を発見しています!



モンゴルの民族衣装「デル(一番左)」と「ハンターズ(右の3着)」



メキシコのビンゴゲーム「ロテリア」に挑戦中!



疑問に思ったことは質問して更に理解を深めます

講師を務めたお二人に話を聞きました!



アブドゥル・カデルさん
バングラデシュ出身

この経験は、子どもたちにとって将来いろいろな国の人たちとコミュニケーションを取るのに役立つと思います。今はインターネットで多くのことが調べられますが、直接会話を交わすことで記憶に残りますよね。私の回では「ラマダン」の話に子どもたちが驚いていましたよ。



アラマ・ジュバテさん
ギニア出身

今まで見たことのないカタチの太鼓に触ってみたり、初めて聞く音楽に合わせて踊ってみる...そんな体験を通して、子どもたちにはぜひ体で表現することの楽しさを知ってほしいと思います。そしてアフリカの文化を感じてほしいですね。

開催のお知らせ



韓国語

 第10回 鳥取大会

日時 平成26年12月13日(土) 13:00~

会場 米子市文化ホール
イベントホール (米子市末広町293)



※ 出場者の応援や観覧など、どなたでもご来場は自由!

初級から中級の韓国語学習者が2名1組で出場し、「中高生スキット」「指定スキット」「創作スキット」の3部門で、指定あるいはオリジナルの台本を暗記して演じ、その出来ばえを競います。衣装あり、小道具あり、笑いあり...そんな楽しいスピーチコンテストを是非ご覧ください。今年度は鳥取県・江原道友好交流20周年、そして記念すべき第10回大会です。発表終了後には太鼓などの民俗楽器を用いた韓国の代表的民俗芸能「男寺党(ナムサダン)」による祝賀公演も予定しています。

お問合せ

米子事務所 <http://torisakyu.or.jp/?id1077> 詳細はホームページでチェック!

平成26年度鳥取県海外研修員の紹介

今年度の海外研修員・県費留学生(前号の特集で紹介)に、10月からブラジルの新たな海外研修員が加わりましたので、今号で紹介します。



鳥取県ブラジル交流促進事業研修員



パチャ・レア・イシイ・チャネスさん

ブラジル | サンパウロ州出身

私は、ブラジルのサンパウロ市で生まれました。父はポルビシア人、母は日系2世です。母の家族は祖父が佐賀市の出身、祖母は米子市の出身です。

昨年、サンパウロにある技術大学ファクレダ・デ・テクノロジーに入学し、現在は観光情報管理を勉強しています。

2012年にはブラジル日本文化福祉協会青年会の一員となり、毎週末に行われる祭りでボランティア活動をしています。今年、ブラジルでワールドカップが開催されたときには、SONYからの依頼で日本人観光客をホテルまで案内する仕事をしていました。10月9日に来日した後、毎日、国際交流財団で日本語の授業を受けました。そして11月10日からは鳥取県文化観光スポーツ局交流推進課、12月1日からは県砂丘事務所研修が始まる予定ですので、今から楽しみにしています。

さて、ブラジルと日本はすごく違う国です。ブラジルは日本より暑く、雪は降りません。季節も、今は冬になろうとしています、ブラジルは春。クリスマスパーティーの準備を始める頃です。12月24日の夜になると家族が集まって食事をし、最後にプレゼント交換をします。海でパーティーをする人もいますよ!ブラジルのクリスマスは夏なので、サンタクロースは涼しい衣装を着ています。ブラジルのクリスマスは明るくてとても楽しいです。

鳥取県で研修を受けているあいだに、ぜひ日本の文化と和食の勉強をしたいと思っています。また、観光が専門ですので日本の有名どころの研究をしてみたいです。研修終了後、ブラジルに戻ってからは、大学や鳥取県人会の皆さんに日本や鳥取県の文化を広めたいと思います。自分自身のためにもがんばります!

財団の事務所を紹介します

【3回シリーズ】

第1回

第2回: 米子事務所

第3回

第2回は「米子事務所」。平成10年、県西部の玄関口である米子駅近くの米子コンベンションセンター1階に開所しました。平成21年からは事務所内に交流スペースができ、週末になると日本語学習のために来所する外国出身者等にぎわうこともあります。

◆ ミニ展示コーナー
“世界をめぐる”

▼ 建物の正面玄関を入り、左へ進むと、米子事務所の入口が見えます



▲ 台湾出身の中国語コーディネーターは火曜日と木曜日に勤務しています

◀ 国際交流に関する掲示板をご利用ください



第2回 START!



▲ 登録ボランティアによるさまざまな活動の拠点
個別日本語学習、英語通訳研修会、中国語勉強会、日本語ボランティアによる自主勉強会として活用されています。また、中華圏出身者が気軽に集う茶話会を不定期で行っています。



▲ 国際交流財団ならではのライブラリーコーナー

外国語の雑誌、絵本、漫画、小説、料理本はもちろん「外国語として学ぶ/教える日本語」に関する書籍・教材が充実しています。その充実ぶりは書店や図書館をしのぐかもしれません!

スムーズな相互コミュニケーションを目指して

日本語を外国語として学ぶ

日本に住む外国出身者は200万人を超えました。これに伴い、日本語を学ぶ人たちも増え続けています。鳥取県では約3,800人の外国出身者が生活しており、現在、様々な立場の外国出身者が日本語を日々学んでいます。



check 1 国語教育と日本語教育の違い

「国語教育」は、日本語を母語とする人が、既に話せる日本語を、より深く豊かにするために学ぶことであるため、読み書きが重要な位置を占めます。一方で、「日本語教育」は日本語を母語としない人が日本語を学ぶことです。そのため、まず生活上、最低限必要な日本語を覚えていき、日本語でより円滑なコミュニケーションができることを目指します。「話す」ことを優先して学習する機会が多く、「読む」「書く」は学習者の必要に応じて対応します。



check 2 日本語能力試験の存在

日本語を学ぶ人の中には、自分の日本語能力のレベルを測る手段の1つとして日本語能力試験を受験する人も増えてきています。この試験は、日本語を母語としない人の日本語能力を測定・認定する試験として1984年から行われており、今や世界最大規模の日本語の試験となっています。

- 試験の実施概要 -

【実施時期】 年2回 (7月、12月)

【レベル】 5段階 (N5~N1)

最も易しいレベルはN5、最も難しいレベルはN1



ここで、日頃から日本語学習をサポートされている方や日本語学習中の方にお話しを伺いましたので、ご紹介します。

#1

日本語学習

サポーターより

「一緒に参加する楽しみ」

つちえ かなこ
土江 加奈子さん
(鳥取県国際交流財団 日本語クラス講師)



日本語クラスは、学習者の皆さんにとって日本語を学ぶ場所であると同時に、情報交換の場にもなっており、仲間づくりのきっかけに一役買っているようです。先輩学習者が新しい学習者に自分の実体験などを教えている光景も、よく見られます。また日本語ボランティアパートナーの皆さんにとっては、日本語文法という新しい世界を目にしながらも、私たち日本人が学校で勉強した国語文法と比べれば、はるかに分かりやすいので、新鮮な気持ちで参加し、学習者の皆さんと一緒に楽しんでくださっています。

地域の日本語教室は、肩の力を抜いてリラックスしながら進める日本語学習であり、私たちもそんな雰囲気づくりができればいいなと思っています。

一緒に学ぼう! 日本語学習支援

鳥取県国際交流財団では、日本語を学習したい外国出身者にボランティアパートナーとして日本語支援をしていただける方を適宜ご紹介する制度も設けています。現在、たくさんのペアが日本語学習を進めていますが、実際に学習ペアであるお2人に話を聞いてみました。

日本語学習を始めて今年で4年目を迎えたラーサさんと浜田さん。ラーサさんは学習を始めた当時、鳥取県で生活し始めてから既に2年が経っていました。しかし、平仮名を読むことができなかったため、子どもを日本の学校に通わせている彼女にとって日本での生活は簡単ではなかったようです。



【日本語学習者】ラーサ・プトナイテさん（リトアニア出身）（写真：左）

“日本の人たちと触れあいたい”…そんな気持ちから日本語学習に取り組むことを決めました。日本語学習を始めた当初は、平仮名を読むことも書くこともできず、子どもが学校からもらってくる手紙を読むことができませんでした。そこで、浜田さんとの学習では平仮名を覚えることから始めました。

今では、普段の生活の中で意味が分かる日本語が出てくると、頭の中に、ふと浜田さんの顔が思い浮かんできて、一人笑みがこぼれることもあります。

生活にも変化が出てくるようになりました。以前は何を言っているか分からないので全く見なかった日本のテレビを、最近では少し見るようになりました。子どもの懇談に一人で行くようにもなりました。今年は自動車運転免許を無事取得して、積極的にドライブを楽しんだりしています。

私にとって日本語学習を続けてきて一番良かったことは、ボランティアパートナーである浜田さんと出会えたことでしょう。

【日本語ボランティアパートナー】浜田 真紀さん（写真：右）

私自身、外国の方に日本語支援をするのは初めての経験だったので、当初は戸惑うこともありました。例えば、「私にもう少し英語力があれば、お互いのコミュニケーションがもっとスムーズになるのに」と思ったこともあります。学習者さんが求めることをちゃんとくみ取ることができているのか、ニーズに応えられているのかなど不安に感じたこともありました。

しかし、今こうして続けられているのは、それ以上に良かったと思えることがあるからです。私たちの場合、お互いの共通点として育児があり、国が違っても育児事情は同じなんだと思いを共有しながら、時にはママ友として交流を深めることもできています。

日本語学習は、週に1回、2時間程度、行っています。片方が都合の悪い日や時期にはお休みします。

今、思うことは彼女の喜びが私自身の幸福感となっているということです。私にも誰かの役に立っているという実感がそこにあり、彼女と出会えたことに感謝しています。

平成26年度「日本語講師養成講座」開催報告

【初中級学習者の話せる・話し合える力のUPを目指して】

【中部】11月1日（土）会場：伯耆ふれあいの郷（倉吉市）

講師：日本語教師 津田 訓江 氏

【西部】11月2日（日）会場：米子コンベンションセンター（米子市）

（公益社団法人 国際日本語普及協会）

今回の講座は、日本語クラスの講師や日本語ボランティアパートナー、地域で日本語学習支援を行っている方々を主な対象として倉吉市と米子市で開催しました。

講師の津田氏には、初中級学習者が直面する悩みである、「テキストで学んだ内容を上手くまとめて言えない」「自分の言いたいことを、もっと自由に話したい」といった“もどかしさ”に対して、支援する側はどんなことをすれば効果的な学習となるかについて取り上げていただきました。

講座の前半では、「学習者とともに学習目標を立てる」「学習者が自分から言葉をしぼり出すのを待つ」などをポイントに、学習者のレベルやニーズを把握する必要があると話されました。後半は、日本語学習中の外国出身者3名にご協力いただき、講師が模擬授業されるのを拝見しました。授業は会話を中心に進められ、学習者が自ら言葉を探し、自分の言葉で説明しようとする姿が印象的でした。講師は、「自分の考えを頭の中でまとめて発表する作業を最後に取り入れることは、達成感を与えることができると同時にレベルアップへつながる」と、授業を行う上でのアドバイスもされました。

学習者とのあいだでは、まず自分のことを簡単に述べてから相手に尋ねるようにすること。また、学習者が話す内容に対して、「なるほど!それで?」「ぜひ教えてください」という具合に、こちらが話に興味を持っている姿勢を示すことによって、相手ももっと説明したくなるように仕掛けることが大事だと学びました。講座を受講された方からは「早速に試したい」と感想を述べられる方も多く、普段の日本語支援活動を改めて見直す機会となったのではないのでしょうか。

